

おい図書館

No.179

発行
おい図書館
代表
青木 和子
松本市牧の原1-104-416
TEL 0471-311-0886

6月20日(土)

片山善博氏講演会と

パネルディスカッション

主催：松戸市教育委員会

高梨綾子

とても有意義な会でした。とても

かく、行政サイドで企画し、市長

教育長・生涯学習部長・図書館長

の皆様が登壇して、松戸が図書館

を中心とした街づくりをすると思

言されたのですから、何と心強い

ことでしょう。市長さんの言われ

たように、今ある分館型に中央館

がしっかりできれば、行き届いた

図書館網が確立することになりま

すね。今までの図書館像を打ち破

り、時代の求める新しいイメージシ

の図書館が生まれそうで、とてもうれしくなります。

「武蔵野プレイス」のことを

教育長さんが語っておられました

たが、あの形態を市が責任を持

って、民間に委ねることなく実

現できれば、すばらしいと思

います。

大串さんが「市民の力がいか

に大切か」を述べられました

が、昨年12月に開催した千葉市の会

でも、あのように市民の力の大切

さを語る場面があつて欲しか

つたと思ひました。松戸で「お

い図書館」の皆さんのあまら

のない活動があつたことに一言

触れて欲しかったと、市民の立場からはその点を残念に思っています。

「市民と共に、市民の意見を聞き、反映させる」…本来の意味で市民の意見を聞きながら進めることは難しいとは思いますが、片山さんの言われる地方自治の根この部分を、行政の方にも言葉ではなく実際に分かち合つて頂き、図書館計画が進むことを祈っています。



鎌瀬容子

時代と共に変わる図書館の役割

というものが、片山氏の基調講演

でよく理解できました。

地域コミュニケーションとしての図書館がとても重要であること。松

戸における図書館は、どうあるべきなのか？もつと具体的に議論を

深めて欲しかった。市民ももつと

勉強をして、どんな図書館があつ

たら良いのか？首都圏内とされる

88万人の松戸に合った図書館とは

どのようなものが良いのか？

住民の意見を取り入れて進めた

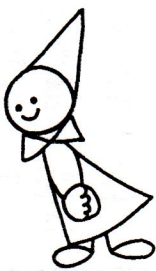
住民の意見を取り入れて進めた

いと話された伊藤教育長の言葉に
松戸の未来を感じられました。

一つ残念だったのは、片山氏が
講演の中で三度話された「指定管
理者制度」という言葉を、筆記パ
ネルでは「外部民間委託」と書い
ていたこと。きちんと「指定管理

と書くべきです。後半のパネルデ
ィスカッションでは「指定管理」
と書いていたのですから。

松戸市における図書館整備計画
が、今回のシンポジウムによつて
一歩進んだと感じ、将来の図書館
への期待がふくらみました。



川鍋道子

教育長もおっしゃってましたが、
片山先生・常世田先生・大串先生
をお迎えしての贅沢な講演会・シ
ンポジウムでした。参加者がもう
少し多くてもよかったです。

司書の専門性や正規採用である

ことの大事さを先生方が話して
下さったのは、とても心強いも
のがありました。一方で、図書
館の外部委託やスタッフの非正
規化によって、開館する曜日や
時間が延びるといふことがあり
ます。

予算などが限られる中で、専
門性の高い司書のいる充実した
サービスの図書館か、あるいは
スタッフの専門性は高くないが
土日も開いていて平日も遅くま
で開いている図書館かを比べて
るを得ない時期が来るようにも
思いました。両方が成り立つ事
例があれば、何かの機会に知り
たいと思いました。



塩崎俊一

先着60名を案内チラシに謳っ
た割に参加者が質量少なかつた。
市議会議員・教育関係者・市民
活動団体・学生など少なく、片

山さんの提言を具現化すべき対象
に依わらない残念な光景だった。
片山氏講演から学ぶべき図書館
への可能性の内、松戸の歴史・文
化・芸能の保存に触れられたのな
ら、ディスプレイで博物館と
の連携に触れて欲しかったが、
展開がなかった。司書問題も財政
との関わりも同様である。

大串さんを中心とした各地の図
書館情報に覚醒された人もあろう
が、松戸らしい特色への導入にリ
アリティが乏しかった。ITの進
展による検索容易を経営効率で捕
らえる視点に対し、伊藤教育長が
人間の根源的な能力の低下を憂う
言葉が一番胸に残った。読むこと
ことたまの力にこそ役割が。

当日の運営に一言。市長が挨拶
の後、講演者に質問するのは失礼
だと思った。しかも、その後話す
事とがアツた。会場からの質疑も
儀礼的で形式的だった。市長は最

後にシンポを受けてパブコメを紹
介し、審議会の答申を受けて、公
共施設の見直し再編の渦中でリア
ルな図書館像を語ってシンポを閉
めるべきだったと思う。



竹峰寛子

「文化の中心に図書館！」「人
と人をつなぐ図書館！」地方
自治の中心に図書館を置くこと
によって自治のあり方が健全化し、
一人一人が住みよい街づくりへと
つながるという期待が広がるお話
でした。

図書館の旧来のイメージで、又、
机上の論で整備されることのない
よう…と願います。たくさんの市
民が足を運びたくなるような場所
にするために、現場で働いている
方々の意見、市民のそれぞれの意
見、又、長年問題を提起し研究し
運動を続けていらっしやる「おー

い図書館」の意見、そして専門家
の意見をしっかりと聞いて進めて
頂きたいと思います。

「図書館員の専門性を高めら
れるよう、又、司書さんの経験
と知識が充分に発揮され、先を
見通して仕事ができるように」と
いうお話に全く同感です。

市民の立場から、これまで長
年にわたって積み重ねた「おー
い図書館」の活動に敬意を表し
ます。



匿名

電子辞書やスマホが生活に密
着した今日、図書館通いをする
人がいるの？と思えますが、勉
強を志す人達は朝早起きをして
図書館前に並び、勉強する場所
(学習室)の争奪戦をしている
ようです。

専門知識を必要としている人
達には、図書館は有難い様です。

学びたい人が学び、誰もが安らか
な癒しの時間を過ごせる処、オア
シスとなる図書館、お勤めの人も
利用できるように遅くまで開館し、
駅の傍であれば、もっと利用者も
多くなるかも知れません。

皆んなが利用したくなる図書館
を期待しています。頑張ってください。
我が家は、金町駅前の葛飾区立
図書館と県立西部図書館(交通が
不便です)を利用しています。



西村祐紘

大変勉強になりました。ありがとうございます。

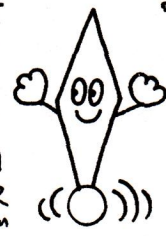
施策の中軸に図書館を置くとい
う考え方を支持します。

中央図書館を市の知的・文化的
センターと位置づけ、分館は各地
のコミュニティセンターの機能
を併せ持つということになりますね。
常世田さんは、働き盛りの層の

ニーズに応えることを強調されてきたが、そのためには次のことが必要です。

① 中年サラリーマンが利用できる開館時間。(小金原分館は午後5時までです。)

② 本と社会をよく知っている司書の配置。



大塚健児

大変素晴らしい内容でした。今までの図書館とは違ったニーズを求めている点、これからは図書館を中心にした地方自治を、という話が特に勉強になりました。

しかし、心配事があります。それは、松戸市議会です。残念ながら、保守というよりも「動かない」と言った方が正しいのではないのでしょうか。この議会を動かし、こ

れからの新しい図書館をつくるのであれば、徹底した市民意識調査が必要であると考えます。

『ペン』は剣よりも強し』—松戸市総合計画でもうたっているように、『自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街』を合言葉に、素晴らしい図書館を目指します。

本日はありがとうございます。P.S. 松戸駅周辺に、場所はありませんか? 「みどりのまち」である東松戸が「中央」となることも、考えの一つです。



神童子

全体として、シンポジウムのねらいが実現したと思う。

「図書館整備計画」の冊子をもらうことができた。教育委員会の傍聴の時は、回収されてしまった。なぜ?

市長挨拶の中で片山さんへ質問していたが、基調講演やパネ

しまい、意味不明の時間に思えた。

片山氏の地方自治に関わる話も含めて、住民参加が様々な場面で語られ、非常に興味をそそられた。松戸市の図書館行政のみならず、様々な場面での開かれた行政を期待したい。住民側も大いに勉強しなければならぬ。

パネリストとしての教育長の発言は、全体の中で浮いた感じだった。学力についての考え方が聞けたのは良かった。最後に「言葉の力」「言葉の文化」ということを言っていたが、現在進んでいる「言語活用科」のことを言いたいのだろうと思った。

学校図書館のこと、学校図書館と公共図書館の連携について、もっと語ってほしかった。



匿名

図書館を利用する一市民としてかねてより図書館政策にご注力

れた片山善博氏のお話を一度伺ってみたいと思っていました。

パネルディスカッションでは、常世田氏と共に、図書館の役割の変化（暇潰しの人の為の貸本屋↓問題解決型や滞在型）を分かりやすく説明され、これからは、市の中核的な施設となる事が望まれます。

また、コスト重視で司書や図書館員の育成を保証しない指定管理者制度が、図書館には馴染まない点も良く理解することができました。

一方で、教育委員会の教育長の話は、少しガツカリでした。図書館政策が専門ではないとはいえ、これだけ豪華なゲストをお呼びして、又とない機会なので、もう少し内容を準備して、取り組みへの意欲を見せて頂きたかったと思います。

今後、文化的な松戸市を目指す上で、市民が使いやすく、満足できる図書館づくりを楽しみにしています。

ます。応援しています。

是非市民の声を聞いて、良い施設を作って下さい。かつてそうだったように、日本一になるように！



河合由美子

10年前、松戸市立図書館の非常勤職員の間合せをした際、司書の資格が無いのですが」との問いに「資格は要りません！」とまっぴり言われ、初めて図書館の状況を知った。それでも、司書の資格を取りたいと思いつ、通信教育で取得したが、学べば学ぶほど松戸の図書館の悲しい状況に胸が痛んだ。心のよりどころ。地域住民の集い・学びの場として、学校図書館との連携も必要と思ったが、その頃は笑顔もなく本を手渡してくれる一部の職員もいて、イメーはマイ

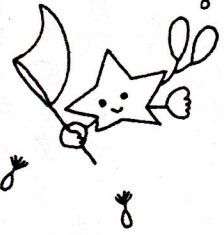
ナスばかりだった。

その時、光を与えて下さった本の著者が、今日の先生方でした。先生方の言葉を生で聴くことができ、感激でした。しかも、自分の街の図書館のために力を貸して下さい。

その後、私は「業務委託」により隣市の図書館に。一年毎の更新で、ほぼ同メンバーで8年目となります。その間、「子どもが松戸の図書館の職員がこわくて、こちらに来てくれる」という方や、「こちらの方がゆとり選べる」という松戸からの利用者はたくさんいらっしゃいます。

あと何年で、構想が現実のものになるでしょうか。ただの夢で終わらないことを祈りつつ、あまりにも遅れている松戸の図書館を、ぜひ市民のために早急に整備して頂きたい。「ただ、本を受け取りに行くだけ、渡すだけ」の図書館

から、心ある温もりのある、機能的な図書館となることを期待しています。



青木和子

「図書館」をテーマとして、このようなシンポジウムを松江市教育委員会が主催するのは、初めての事です。私たち市民にとって大変有り難く、素晴らしい企画だったと高く評価しています。

参加者は350名だったようですが、松江市民のみならず、県内外からも、志を同じくする図書館関係市民団体の方々も足を運んで下さったことは、とても心強く嬉しいことでした。

基調講演の片山善博さん(慶応義塾大学教授・元鳥取県知事・元総務大臣)からは、ご自身の体験を踏まえて地方自治の視点から、図書館は町づくりの中心である

べきというお話を、実例を交えてお聞きすることができました。パネルディスカッションは、

片山さん・大串夏身さん(昭和女子大学教授)、伊藤純一教育長・コーディネーターとして常世田良さん(立命館大学教授・元浦安市立図書館長)という願ってもない豪華な顔ぶれで、それぞれの方が、図書館のあるべき姿や松戸の図書館の現状を踏まえた上で今後について、大変示唆に富むお話をして下さいました。

シンポジウム冒頭の挨拶で本郷谷市長から、またパネルディスカッションの中で伊藤教育長から、松戸の図書館についての前向きな方針をお聞きすることができたのも、大変嬉しいことでした。今後に大いに期待したいと思えます。

このシンポジウムは勿論のこと、図書館整備計画審議会での

議論・提言、そして先日のパブリックコメントにも示された市民の声を直撃に受け止め、より良い図書館づくりに向けての担当部署の尽力を心から願っております。私たち市民も、具体的・建設的な提言に向けて、さらに勉強し努力を続けたいと思います。

大きな一歩を踏み出して下さった松江市の担当部署の方々に、心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



☆今年度の「松江市図書館整備計画審議会」は、8月20日頃に第一回が開催予定。以後、5回の開催が予定されています。

「広報まつど」に案内が掲載されますので、皆様奮って傍聴されますよう、どうぞよろしくお願致します。